

# 令和4年度 上田市立塩田西小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
かしこく やさしく たくましく  一学校経営ビジョン 誰もが安心して 生き生きと学び 自主性をはぐむ学校	「かしこく」意欲的に学習に取り組む子ども 「やさしく」人やものを大切にする子ども 「たくましく」心と体をきたえる子ども	
	今年度の重点目標	
	1	安心して取り組める、わかる・楽しい授業づくり
	2	誰もが安心できる学級・学校づくり
3	自分を向上させる心と体づくり	

総合評価					
○学びのUD化の視点を生かした授業改善は7年目を迎えた。今年度は視覚的支援、具体的支援、肯定的支援を大切に、一人一公開での研修を中心に授業改善に取り組んできた。主体的な学びの姿を目指し、支援が子どもの意識や実態に沿ったものか更なる吟味が必要である。 ○児童アンケートで多くの児童が「先生や友達は、頑張っていることを褒めたり励ましたりしてくれる。」と肯定的に答えている。来年度子どもたちの声に耳を傾け、支えていくことを教師の姿勢として大事にしたい。 ○体力向上のためにマラソンなどに取り組んだ。日本一周カードなどを用いたことでめあてをもち、達成感を味わいながら取り組んでいる姿があった。児童一人ひとりに応じた目標が設定でき、挑戦することの楽しさや達成感を味わえるような活動を仕組むことが大切である。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
視覚的支援、具体的支援、肯定的支援を大切に授業改善に取り組んだ。主体的な学びには課題が残った。		○			塩田西スタイル(課題把握)を軸に、子どもの声をひらき、問いのある授業をめざしていく。
一人ひとりの良さを認め、寄り添う支援を心がけた。多くの児童が教師にがんばりを認めてもらっていると答えている。	○				不安を抱えている児童の思いを大切に受け止め、職員や児童の人権感覚の育成に力を入れていく。
行事や児童会での活動を通して、めあてをもち粘り強くやり抜く姿が見られた。		○			清掃など全校で取り組む課題を明らかにし、PDCAのサイクルで取り組む。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程・学習指導	特色ある教育活動の意識化	・ふるさと体験学習を通して、探究する楽しさや粘り強く追究する意識を持たせることができたか。
		学習に向かう基本姿勢	・全校共通の「塩田西スタイル」の意識し、1時間のゴールが見通せる授業を実践しているか。
		子ども主体の授業	・つける力と学習課題を明確にし子どもの言葉で課題を据え、友だちと関わり粘り強く追究する場を設定し、子どもが主体となる授業を展開しているか。
		授業の3観点の実行	・学びの内容や振り返りや確認を大切に、できた、わかったという実感のもてる授業を展開しているか。
	豊かな自己表現力の育成	・考えを伝え合いながら学習を深める学び合いの場を設定しているか。	
	生徒指導・学級経営	挨拶の励行	・職員自ら挨拶をし、心の通う挨拶になるよう、児童との関係を深めることができたか。また、地域に心の通う挨拶を広めることができたか。
主体的に活動する子どもの育成		・目当てを明確にし、子どもが主体的に活動する児童会活動、学年学級の活動の場を設定したか。	
認め高め合う子どもの育成		・児童が「自己肯定感」を高揚させる場の設定や肯定的支援を行ったか。	
たくましい心の育成		・目標設定、行動、見直しのサイクルを回し、挑戦する気持ちを育てる場を設定しているか。	
学校運営	地域との連携	キャリア教育の推進	・地域講師の支援、地域の大学、高校との交流等により、ふるさと体験学習を充実、発展させているか。
		積極的な情報発信	・学校ホームページ、学校、学年、学級だより、他機関の報道等で情報の発信ができていくか。
		児童の安全確保	・安心メールを活用したり、安心の家、安全ボランティアと連携したりしながら、保護者や地域の方と協力して取り組んでいるか。
	研修	校内研究・研修の充実	・児童理解に立脚した個々に寄せた教材研究を積み、誰もが主体的、対話的に学び、成長の実感できる授業づくりに向けた研修に取り組んでいるか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
コロナ禍ではあったが、前年よりふるさと体験学習の機会が増えた。豊富な学習材を子ども主体的な学びに結びつけていく		○			今までの活動を大切にしながら、教材との出会いを工夫するなど問いのある学習をしたい。
視覚的支援、具体的支援、肯定的支援を取り入れた授業改善がなされた。主体的な学びを目指し、支援が子どもの意識や実態と合っていたのかの吟味が必要。		○			学習問題、課題を子どもの声から設定していく問いのある授業を目指す。学習問題設定場面を子どもの実態に沿ったものにしていく。
一人一公開等で子どもの言葉や意識から学習問題や課題を設定する授業が見られた。さらに子どもの意識に沿って学習問題・課題を設定することで主体的な学びにつなげていく。		○			塩田西スタイルの課題把握の場面を焦点化し、引き続き授業改善に取り組んでいく。
授業の展開を統一したこと、具体的支援を意識したこと、追求・活動時間を確保しつつ、振り返る時間が持てるようになってきた。何を振り返るのかの吟味が必要。		○			まともな、学習問題の答えを書くことを意識していく。学習問題からまともなまでが一貫する授業を展開する。
子ども同士で話す・相談する機会を増やすことで気づきが生まれたり聞いてもらえる喜びを感じることができた。	○				肯定的支援により、安心安全な教室の雰囲気作りにも、よい学び合いの場を作っていく。
職員から進んで挨拶をするよう努めた。自ら挨拶をする・返事を返すという姿には差がある。保護者アンケートからも同様の意見があった。		○			児童同士、児童と職員とが挨拶しあえるような関係にしていきたい。また、児童会と連携し挨拶の輪を広げるとともによい姿を広げていく。
コロナ禍で制限がある中で、どのようにしたらねらいに迫れるか子どもたちは自分達で考えを出し合い工夫して活動していた。	○				キャリア教育とも関連づけながら、毎日の係活動や当番活動等の意義を感じながら、子どもたちのアイデアを大切に主体的な活動になるようにする。
肯定的支援として教師自ら過程を肯定するよう心がけた。失敗を恐れずに取り組んだり明るく意欲的な姿が見られたりした。	○				引き続き、肯定的支援を心がけていくとともに、福祉的交流や異年齢交流により、自己有用感を高揚させたい。
児童会が中心となりマラソン等、目標に向けて取り組めるような活動を仕組み、挑戦する過程を大切にに取り組んだ。意欲的に取り組み達成感を味わう姿が見られた。		○			児童一人ひとりに応じた目標が設定でき、挑戦することの楽しさや達成感を味わえるような活動を仕組む。
高校生、大学生、地域の方との交流等、コロナ禍ではあったが取り組むことができた。今までの活動を大切にしながらも新しい切り口で問いのある活動に発展していきたい。		○			総合的な学習の時間を中心に問いのある活動が生まれるよう学習材との出会い等を工夫していく。
子どもの姿や学校の様子が伝わるように工夫しながら、学年便りや学校便りを定期的に発行した。また、HPの更新を心がけた。		○			学年便りや学校便りの定期的な発行に加えて、安全・安心に関わる情報発信をタイムリーに行っていく。
4月に安心メール登録の確認をし、全家庭に配信できるようにした。熊・サル・猛暑等子どもたちの安全に配慮し、保護者への連絡、注意喚起等を行った。	○				年度当初安心メールの登録変更を速やかに行う。来年度も安全に関わる懸念事項が予想されるが保護者に分かりやすく情報を発信して連携していく。
UD化3つの支援を軸に「塩田西スタイル授業作り構想シート」をもとに全学級授業公開をした。MIMIにも取り組んだ。主体的な学びの姿を目指したい。		○			UD化・MIM・Q-Uについて職員の意欲が高まるような研修の充実を図る。研究の切り口を明確にして取り組んでいく。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった